

亀の間 YかめのまZ

千住大橋の2番目と3番目の橋はし杭ぐいの間は「亀の間」「お亀のます」などと呼ばれていた。この場所には成長し過ぎて出られなくなった1匹の大亀が住んでおり、船が通ると間違い（事故）が起こるとして、心ある船頭は丁てい重ちょうによけて船を進めた。どんな洪水でも橋が流出しないのは、この大亀が川のなかで懸命に水をかいているからともいわれる。隅田川と亀の話ではもう一つ、左ひだり甚じん五ご郎ろうが隅田川砂浜に描いた大きな亀が動き出し、川の主となったという伝承も残る。



（歩いて学ぼう南千住検定より）